

整理整頓という言葉は小さい頃から聞いてきました。整理とは混乱している状態を元の状態にし、整頓とは元の位置に戻す事を意味しています。私たちは整理整頓が得意でしょうか、それとも不得意でしょうか。いつでもお客さんが招ける状態かそれともお客さんを招く時など、急場をしのごく片付けを繰り返しているでしょうか。目に見える所が散らかっているならば、私たちの心の中も散らかっているかもしれません。9割片付けられた部屋になったとしても、1割が汚くしているのであれば、私たちの心も同じように9割が良くて、1割が散らかっている可能性が高いのです。「病は気から」という言葉がありますが、心が「病気になる」と思っていると、実際に体も抵抗せずに病いにかかってしまいます。体の抵抗力は脳からの伝達で決まります。脳で指令を出した通りになっていきます。私たちの心から出てくるものを如何に正しいものにしていくために心の整理が必要です。周りに気を配れるようになるにも心の整理ができて、ゆとりがなければできません。家に物が散乱し、溢れている「ごみ屋敷」に住んでいる人は大抵同じような顔つきや身なりをしています。心の整理をしていかないとこのようになってしまう危険性があります。(イザヤ40：3～8)「荒野で叫ぶものの声がする。主の通られる道をまっすぐにせよ」とパテスマのヨハネがイエスキリストを迎えるにあたり引用している有名な箇所です。この道とはイエスキリストを指しています。「私は道、真理、いのちです。私を通してでなければ誰一人父の元に行く事はありません(ヨハネ14：8)」イエスキリストの道であり、イエスの通った道が救いへの道です。そしてその道を整えよと伝えています。パテスマのヨハネは道を整える事として、悔い改めることを教えています。道を整えるとは私たちの心や内面をさしていることがわかります。私たちの道(心)が障害物や傷や罪でいっぱいだからです。私たちの敵である悪魔は罪にしか働く事ができません。心の中に罪があれば、悪魔は容易に私たちを罠に陥れる事ができます。悪魔は何かして私たちが罠に引っかかり、イエスの道を進めないようにしたいのです。イエスの道とは赦しの道であり、自己犠牲の十字架の道です。その道を歩んでいけば、赦され、真理の中を歩み、力を得る事ができます。しかし心の整理ができなくて、問題があると悪魔は私たちの心に付きまとう事ができます。教会に教職者が建てられた理由は、聖徒たちが奉仕の働きをさせるためです(エペソ4：11～12)奉仕の働きとは様々な教会における働きがありますが、もっと大切な事があります。それは私たちの道を多くの人に見せるためです。すべての奉仕の土台に私たちの道がなければいけません。教会に来た時は牧師や伝道者によってその道を教えられます。しかし「人はその友によってとがれる(箴言27：17)」とあるように教えられた道を歩むときに、周りの人々から、お互いに切磋琢磨して歩むことになります。周りの人に道を示すために歩んでいるのであれば、道がちらかないようにしなければいけません。(詩篇8：5)人は神よりいくらか劣るものとして創られたと書かれています。完全である神よりいくらか劣るものとして創られた人は、心の整理ができず、散らかってはいけません。私たちはイエスを蔑ろにして生活しないようにしましょう。最近起きている、痛ましい事件や、風潮はすべて心の乱れによるものです。心が散らかっている故に正しい判断ができなくなってきています。私たちは日々の生活の中でグッセマネの祈りができているでしょうか。グッセマネとは油搾りという意味であり、心の中にある問題を神の元にすべて搾り出し、さらけ出していますか。日々起こる心の中の葛藤を整理していきましょう。それができていないとどんなに価値のある宝であってもごみの中にあっては宝を見出す事ができません。イエスキリストは十字架にかかり、私たちの汚れを完全に取除いてくれました。しかし私たちの心が墨よりも黒い状態になっているのであれば、もう一度十字架を思い出し「雪よりも白く」されましょう。いつまでも過去の記憶を大事にして整理できない状況に陥ることはやめましょう。過去の記憶の整理ができていないと、私たちが痛いのです。生きていけば、罪を犯しますし、傷をつけられます。過去に生きるのではなく、グッセマネで油を絞りだしていれば、次の日には影響がありません。すべて十字架によって赦されているからです。私たちは夢も希望もなく、硬い岩ようになってしまった周りの人々に道を示すことができますでしょうか。家庭に人を招く事ができない人は心にも招くことができません。「ここまでは〇〇をする」という線を設ける人がいます。自分の行動に仕切りを作ってしまう人です。それは小分けにしているだけで、記憶を整理し、解決しているとは言えません。私たちの心が散らかっているのであれば、散らかった原因やきっかけが必ずあります。ですから、毎日散らかった原因をグッセマネの祈りの中で整理をする必要があると言われていきます。整理をするとはなぜそのような事をしてしまったのかと後悔をするのではなく、何が原因なのか、過去の記憶を整理し、悔い改めていく事です。そのためには「なぜ今落ち込んでいるのか」「なぜ機嫌が悪いのか」「なぜいらいらしているのか」「なぜ失敗してしまうのか」「なぜやる気がおきないのか」と思っているのであれば、探りましょう。そして今悩んでいる問題に隠れて、別の問題が潜んでいます。人を招く気持ちがあっても心の中が暗いと人に伝わりません。気持ちがあるだけでは意味がありません。人を招きたいと気持ちがあるのにできないからとても重くなります。やる気がないからできないのではなく、心の整理が出来ていないため、心が散らかっているから招けないのです。(1コリ5：15～17)神にあって新しく作られたのであれば、古い基準で人を見ません。クリスチャンがクリスチャンを裁いては意味がありません。過去に自分が経験してきた事と比べてしまうからです。自分の標準で見えてしまっているからです。イエスの十字架によって私たちの心にある傷は癒されているので、人間的な基準は取り除かれています。十字架の赦しと癒しが完全です。何に私たちは問題の杭を拾い、癒された心に刺して、傷ついたと言っているのです。私たちの心は笑っているでしょうか。教会はいつも笑っているところです。神の国は義と平和と聖霊よる喜びだからです。神の義があるからこそ、平和になり、平和があるからこそ、喜びに繋がります。そこには聖霊が臨在する場所となります。心を搾り出す祈りが出来れば喜びに変わります。心を整理するためには①捨てる・蓋ではだめ。蓋をしているのではなく、過去は捨てなければなりません。いつもキリストにあって新しくなりましょう。蓋をしていると気づかずに本能のままに生きていってしまうだけになってしまいます。本能のままに生きていっているのではありません。ですからいらぬものを捨てましょう。②記憶を管理する。私たちの記憶は自分の都合に合わせて変わってしまいます。特に自分が悪かった記憶は忘れていきます。自分よりも他人が〇〇してくれなかったからと原因をすりかえて記憶していきます。古い記憶を持っていると、本当でない事を本当のように思わせてしまいます。楽しかったのに、楽しくないとか、辛かったのに、辛くなかったとか…。脳は自分にとって耐え難い経験をすると記憶を変えてしまい、それがあたかも事実のようにしてしまいます。クリスチャンはそれではいけません。神の前に出て自分の非を認めて、悔い改めをするように教えられています。しっかりと整理していれば、思い出しても自分が悪かったと言えます。記憶を書き換えることもありません。毎日を振り返り、祈って進んで行きましょう。日々しないといけません。溜まったらできなくなります。(箴言24：26～27)自分の家を建てあげていくためには日々の生活がしっかりしていないとできません。③心の栄養。花が咲くにも栄養が必要です。(Ⅱテモテ3：16～17)心の栄養とは御言葉です。私たちがしっかりと立っていくためには御言葉が必要です。そして神の靈感によって書かれた御言葉を私たちの霊の部分で感じないといけません。聖書を偏って読むのではなく、聖書を靈感によって読み、心を奮い立たせる必要があります。それは私たちの周りにいる人たちに必要な言葉や愛の手を差し伸べるためにしているのです。心にある痛みを取り除いて行かなければなりません。そして私たちの語った言葉によって解決しているのであれば、周りにいる人々が同じようにイエスの道を得る事ができます。私たちの心が散らかっているとイエスがしなさいと言われた事が負担になってしまいます。しかし整理ができているのであれば、しなさいと言った事が喜びに変わります。今までで本当に辛かったことを神の前に打ち明けて整理をしていきましょう。悩んでいることも素直に打ち明けていきましょう。神の御言葉によって解決をしていきましょう。(要約者：平澤一浩)